人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。
マタイによる福音書　7章12節

BAIKA 1878

2017年
創立139年

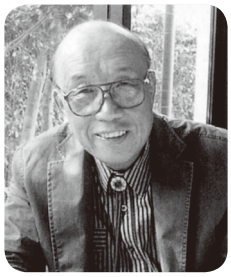
2017年（平成29年）
3月17日
第13号

梅花女子大学 チャペル・ニュース Chapel News

発　行
梅花女子大学宗教部
〒567－8578
茨木市宿久庄2－19－5
072－643－6221㈹
072－643－8997
E-mail skb@baika.ac.jp
澤山記念館１階

「自由を肉のために使わない。」

止揚学園創立者　福井 達雨



みなさんこんにちは。私は今年84歳ですが、30歳の時から50年以上、この梅花に話に来ています。昔はこの場所ではなく、豊中にあった旧校舎でした。長い間、私を招いていただき、深く感謝しています。

こうした機会を与えていただくと、いつも思うことがあります。それは、恐らくここにいる皆さんと私の出会いは、これが最後か、後一度ぐらいしかないと思います。（ほとんどの人たちともう出会えへんなあ）と思うと胸が熱くなります。だからこそ、この出会いは私にとってとても大切なのです。出会いを大切にする人間は、素晴らしい、優しい、美しい人生を創り出すことが出来ます。今日はこんな思いで、今を大切にしながら、皆さんに色々な話をしようと思います。

さて、私の家には少し大きめの庭があり、（小鳥が来てくれたらいいなあ）と思い、2年前に、数種類の実のなる木を植えました。その木に今年、沢山の実がなりました。紫の実、真っ赤な実を見ていると楽しくなってきます。しばらくすると、色々な小鳥が飛んできて、実を食べ始めました。雀はほんまにおしゃべりです。ピーピー、ピーピーと鳴きながら、忙しそうに枝から枝へとび移り、実を食べています。その姿を2階の窓からそっと見ていると、可愛らしくて、その姿に心が晴れ晴れとしてきます。

木の下には、連れ合いの光子さんが植えた花が、色とりどりに咲いていて、道行く人たちが立ち止まって「美しいなあ」と云いながら見ています。この花園が、私たちの心に潤いを与えてくれています。

その小鳥たちや花たちを見ていると、（人間は人間だけで助け合っているんやあらへんなあ、地球の生命ある総てのものが支え、助け合って生きてるんやなあ。もし、小鳥たちがいなかったら、美しい花が咲かなかったら寂しくて、暗い世界になってしまうなあ）とフト、感じました。（この地球は人間だけのもんや。人間が総てや）というような人間中心の高慢な考えや、生き方を、私たちは持ってはいけないと思います。

80歳を過ぎると若い時に持たなかった感じ方をするようになってきました。歳をとるということは見方が本質的になるということでしょうか。歳を重ねることは深い意味がある、素敵なことなのですね。

さて、昨日は参議院の選挙でした。皆さんは投票に行かれたでしょうか。私の投票した人は、残念ながら落選しました。

私は大学生の時から知能に重い障害を持った人たちと歩み始め、60年近くなります。そして、皆さんが余り経験しない、いろいろなことに出会ってきました。

この人たちは10数年前までは選挙権がなかったのです。（私たちと同じ日本人なのに選挙権があらへん、そんなおかしいことはないわ。この差別をなくさんとあかん）と私たちは国に訴え、長い間かかってこの人たちの選挙権を回復させました。あの時はほんまに嬉しかったです。しかし、実際に選挙に行って気づいたのは、今の選挙は候補者の氏名記入という方法です。この人たちの多くは字が書けません。線を引くか、丸を描くかしか出来ません。結局、何も書けず白紙投票しかできないので

す。選挙権を持っても選挙に参加できない。これでは以前と少しも変わらない。選挙権がないのと同じです。形だけを変えるのではなく、内容も変える、この姿がないかぎり、知能に重い障害を持った人たちの差別は無くなりません。

さて、差別とはどういうことでしょうか。人間が真に生きる姿を「実存」と云います。そして、この実存には「存在」と「所属」という2つの要素があります。どういうことかと云いますと、私は今、人間として、日本人としてここに存在しています。しかし、存在だけでは人間として生きられません。もし、私が話をしているのを皆さんがワーワーと騒いで、私を受け入れてくれなかったら、私は立ち往生をしてこの場では生きられへんのです。私たちは存在するだけでなく、皆に受け入れられる(所属が与えられる)ことが、とても大切なのです。この受け入れ(所属)を奪うことが差別するということなのです。

知能に重い障害を持った人たちは、人間として、日本人として存在していても、私たちが受け入れず、所属を奪っていて、人間としての実存がないのです。私たちは形だけ(表面的)に差別をなくしても、本質的には深い差別を持っていることを、この選挙権のことを一例として知ってほしいのです。

先程、髙田先生に読んでいただいた聖書の箇所「あなたがたは、自由を得るために召しだされたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせずに、愛によって互いに仕えなさい。律法全体は、『隣人を自分のように愛しなさい』という一句によって全うされるからです」の意味を考えてみます。

私たちはイエスさまから自由を与えられました。私たちは自由なのです。しかし、その自由を自分のためにだけ使い、何をしてもいいのでしょうか。聖書は「肉に罪を犯させる機会とせずに、愛によって互いに仕えなさい」と教えています。イエスさまは私たちの罪を背負って、十字架に架かり、その死を通して私たちが裏切った神さまと和解させてくださいました。そのイエスさまの姿が愛なのです。愛とは、隣人を自分のように愛することなのです。

今、人間は戦争、テロ、核兵器、地球温暖化と、どれも人間が、自分のためにのみという人間中心の高慢さで地球を支配しようとしています。「私たちは何をしても自由や」と考え、肉に罪を犯させています。この結果、地球を滅ぼしています。今、私たち一人一人が、そのことに気づき、イエスさまが示してくださった「愛」を持つことができたら、「温かい地球になるやろなあ」と思います。私たちは地球を滅ぼしてはいけません。可愛い小鳥や、美しい花、私たち人間を支えてくれている総てのものが住んでいるこの地球を滅ぼしてはいけません。

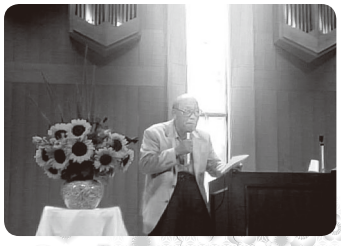
さて、私が共に歩んできた知能に重い障害を持った人たちのことを「私たちは関係がないよ、私たちは自分勝手に、自由に生きたらよいんや」と考えないで「この人たちに私たちは苦しみや、悲しみを与えてきたんやなあ、それを深く謝って、この人たちのことを真剣に考え、共に歩まんとあかんなあ」とあなたがたに与えられた自由を、自分のためにだけに使うのではなくて、その自由を糧にして、愛の行動に変えてほしいのです。

イエスさまに与えられた生命は、ほんまに大切なものです。その大切な生命を総ての人間が持っています。そして、その生命は誰もおかすことができません。知能に重い障害を持った人たちも、持たない人たちも、その大切な生命を持っています。差別をするということは、その大切な生命をおかすことなのです。そのことをしっかりと心に感じ「自分はどんな小さな生命でもおかさんとこう」と、この知能に重い障害を持った人たちを隣人として、自分のように愛してほしいと今、私は深く、深く祈っています。

最後になりました。今日は「人間は皆、イエスさまから自由を与えられ、自由やけども、その自由を自分勝手なことに使わず、隣人を愛するために使うことが、地球に住む総てのものが幸福になることなんや」ということを話しました。皆さんの自由を愛のために使ってください。

これは胃癌で亡くなった弟の愛という詩の一節です。読みます。

愛は神そのもの
神は愛をいとおしむ
人おも　愛によりていとおしむ
信仰は自己と神の会話
愛は人間と神のきずな
愛は神そのもの



お祈りをします。イエスさま、私たちの高慢や欲望で、あなたが与えてくださった自由を使うのではなく、愛によって使う力を与えてください。梅花女子大学の総ての人を、あなたの愛が包みますことを祈ります。今日の一時をありがとうございました。アーメン。

「明治期、梅花女学校で学んだ女生徒たち」

―キリスト教女子教育の目指したもの―

同志社女子大学名誉教授　坂本 清音

今日のタイトルにある「明治期」とは、皆さんのお祖母さんの、そのまたお祖母さんたちが、梅花女学校で勉強していた時代のことです。その頃すでに梅花女子大学の苗木は植えられたという事実をまず心に留めていただければと願います。皆さんの大学が2018年に創立140年を迎えられるとは、そういうことなのです。

さて、皆さんのお祖母さんのお祖母さんが、この梅花女学校で学んでいた頃の日本は、250年に及ぶ鎖国の後、やっと開国を決めました。しかし、外国人の入国が許されたのは日本の中で6つの港のみ、外国人の居留は開港地または雑居地のみという時代でした。明治6年にキリスト教禁令の高札は外されましたが、その趣旨は十分に納得しただろうから外す、という非常に消極的なものでした。それから数年後の明治11年に、キリスト教の女学校を開く困難さは、皆さんも容易に想像できることでしょう。

そういう状況の中で、浪花のキリスト者たちは、沢山保羅を中心としてキリスト教の女学校を開くことを決意しました。しかも、京都の同志社や神戸女学院が進んで外国からの援助を受けたのとは違い、梅花は外国の経済的援助を恃(たの)まず、教会員が力を合わせて教会立の学校として始まりました。とはいうものの、当時、キリスト教女子教育の教師としては、海外伝道のために来日していた女性宣教師は大きな助け手となりました。

それでは、アメリカン・ボードから派遣された女性宣教師が、日本という風土の中で、どのようなキリスト教の教育が必要と考えたのか、レビット夫人の言葉をご紹介しましょう。

女性宣教師の目指した、日本女性に対するキリスト教女子教育

写真提供：同志社女子大学史料センター

梅花女子大学の皆さんは、「自給独立」という考えを後押ししたレビット氏について耳にされる機会が多いでしょう。しかし、レビット夫人についてはどうでしょうか。彼女は、ウーマンズ・ボード（アメリカン・ボードの女性機関）の発行していた *Life and Light for Woman* 1882年3月号に「日本における女性宣教師の仕事」と題する記事を投稿し、当時の日本在住の女性宣教師の声を伝えています。その冒頭で、キリスト教女学校において教えるべき徳目について次のように書いています。「親切で円満な女性らしい性格を養い育てること、身体を大切に扱うこと、嘘をつく習慣をやめるよう教え、本当の意味での謙遜を身につけ、自分の考えを持って行動するように導くこと、そして、女性の影響力がどれほど大きいかを示して、自ら慷慨心を持ち、自らの人生を神から与えられた賜物・特権として、積極的に生きるよう訓練すること」

この女子教育観は、当時の儒教的女性観とは大違いでした。例えば「女大学」という書に記された「三従の教え」は「女子は、父の家にありては父に従い、夫の家に行きては夫に従い、夫死しては子に従う」と教えていたのです。そのような教えを受けていた日本の若い女性は、レビット夫人の示した女子教育観に出会うことで、自分を見る目が変化し、自分の頭で考え自分の足で立って生きることに自信を持つようになったのではないでしょうか。

『つぼみ』とキリスト教女学校の連帯

明治期の梅花の女子教育を考えるにあたって、もう一つご紹介したいのが、『つぼみ』という雑誌です。この雑誌は、明治23年から25年までのわずか2年間ですが、関西のキリスト教女学校が連盟して出版したものです。その担い手は、女学校の教師と生徒だけでなく、日本のキリスト教女子教育の現状と将来について真剣に考え、力を合わせてキリスト教の価値観を持つ女性を育てていこうとした、民間のクリスチャンたちでした。明治23（1890）年という年は、急速に広まったキリスト教女学校に対して日本国政府が迫害を始めた時期に当たります。多くのキリスト教女学校がキリスト教主義教育を

捨てて生き延びようとする中、関西のキリスト教女学校が連帯してこの荒波を乗り切ろうとの思いで発刊したのが『つぼみ』でした。

『つぼみ』の前身は、『梅花余香』（1889年3月に第1号出版）という梅花女学校内の「学芸振興」のための雑誌でした。その続編として、1890年1月、同志社女学校・梅花女学校・神戸英和女学校・山陽英和女学校の4校で女文会という組織を立ち上げ、『つぼみ』という名前の月刊誌として再スタートしたのです。発行の目的は3つ。まず、学校同士、生徒同士の交流を深める「姉妹校の修好」、次に『梅花余香』を引き継ぎ、女生徒たちの文章力を高める「文学の奨励」、そして最後に、キリスト教の女子教育を意味する「女学の開進」のためでした。

雑誌の名前『つぼみ』に関しては、第1開（号）に新島襄の夫人八重が寄稿し、この命名を祝って「過酷な自然の中に咲くいかなる花も、最初は蕾である。この機関紙が〈気節〉〈優美〉〈希望〉の象徴である「つぼみ」という名前をつけてスタートする意義」を述べています。目次にも工夫が凝らされ、女生徒の作品が寄せられる「花壇」、教師や知名人の特別寄稿欄である「名苑」、海外で活躍した女性の伝記を扱う「遺芳」、さらに翻訳文学を掲載する「移植」欄などが設けられました。「花壇」に投稿された生徒の作品には先生の講評が付けられ、次回の投稿への励みになりました。第1開に投稿された11の作品のうち半数以上の6人が梅花女学校生です。

第3の目的の「女学の開進」については、その意義がキリスト教徳育の開進であり、具体的にはキリスト教主義を基にした「知徳兼備の女丈夫」を育成すること、その根本は「愛神愛人主義道徳」であると書かれています。

24巻の全体を通して頼もしく感じられるのは、文中によく出てくる「我ら」という呼びかけの言葉です。その「我ら」は多くの場合、対象に女学生を含み、しかも決して上から目線ではありません。喜びも悲しみも共に担う共労者としてのアピールが、その響きの中に感じとれます。それは、聖書の教えを通して、神の前では男女が人格として対等であることに目覚めた当時の女子教育者たちが、年齢、経験の差を超えて、教師も生徒も人間としては同じとの思いで教育の場に立っていた証と見ることができます。だからこそ、女生徒の側でも、この呼びかけを本気で受け止め、「女子教育者に望む」（第4開）、「女学校の衰微を難じて自ら警む」（第16開）、「女学回勢策」（第22開）等々の題目で応えていったのでしょう。

また、この表れの一つが「梅花女学校の記事」（第5開）です。そこには、梅花女学校の中に「伝道会」という組織があること、最初は25名くらいの会員だったのが3ヶ月もしないで70名に増え、毎日お昼休みに集まって種々の仕事をして金銭を得、そのお金で新聞や書物を購入して勉強をしていること、さらに、2人1組で学校内外の伝道に励んでいる様子が紹介されています。この記事を読むと、女学校のために心身を削って献金を捧げ支援していた大阪の教会のクリスチャンへの恩義を感じ、勉強だけでなく伝道にも励む梅花女学校生の姿が浮かび上がって来ます。

梅花スピリット

以上、『つぼみ』を読んで明らかになるのは、外からの逆風に対し、教師と生徒が互いを信頼し、一丸となってキリスト教による「女学の開進」に邁進した姿勢であり、関西に位置するキリスト教女学校の教師・生徒間の絆を強めようとの熱意です。それは、女性を1人の人間と見なかった日本社会の中で、キリスト教女子教育に携わった女性宣教師たちの願いであり、それと同じ目線に立ってキリスト教女学校の創立者となった沢山保羅や新島襄の志であり、それに応えて、日本を背負って立つ女性になろうと懸命に知識と信仰を身につけた、当時の女生徒たちの姿であったと言えます。

梅花学園には「梅花スピリット」という言葉があることを教えていただきました。きっと皆さんは、目には見えない形で、空気のように、このスピリットを呼吸しておられるのだろうと思います。そのスピリットの成分の核になっているのは、今日お話しさせていただいた創立当初の先輩たちの精神ではないでしょうか。もう直ぐ創立140周年を迎えられるこの時期に、梅花学園で学ばれている皆さんが、多くの試練や苦難をくぐり抜けてきたキリスト教女学校の初期の歴史に注目し、若くて新しい目で、梅花に関わった女性宣教師のことや、皆さんの先輩たちの生き様がありありと伝わってくる『つぼみ』に関心を持って頂ければと願います。そうすればきっと、ご自分の受けておられる梅花学園の教育の質をより深く理解できると思います。

梅花女子大学案内の表紙に掲げてある Challenge & Elegance も、「梅花スピリット」をベースにしてこそ、真に意義のある特色となりうるのだろうと想像しました。

「新しい生命（いのち）」

梅花学園同窓会会長　炭谷　みどり

今日は皆様に私の小さな体験を聞いて頂けることに感謝しております。考えてみますと梅花を卒業しまして48年、皆さんから見ると祖母ですね。

私は親の勧めるまま梅花中学に進学しました。そして学校や、学校から紹介された教会に行くうちに、昔、小学校の頃、町のテントで宣教師に習った「主われを愛す、主は強ければ」の歌が賛美歌と繋がり、これがキリスト教との出会いです。中学時代土曜、日曜は休みでしたから親の言いつけでお茶とお花のお稽古、日曜は教会と明け暮れ、私の梅花高校生活が始まろうとした時、50年前ですから、梅花高校進学のために戸籍謄本を提出しなければならず、持参した書類を見て驚いたのです。それは養女、養母という文字でした。よく見ると父、母は実生活中の親で幼児の時に戸籍上養子に出されていたのでした。独り身の伯母の跡継ぎというので養子に出されたのでした。

親心を理解できず、それからは親に反発し、親を許せず、家庭から逃げるように日曜日教会に通い早朝は子ども礼拝やキャンプ、教会中心の高校生活で、導かれるまま洗礼を受けました。洗礼を受けたにも関わらず、家庭では反発したまま、再び大学の進路で両親と揉めました。家を継ぎ婿取りをする者には学歴はいらないと大学は許されませんでした。家に居たくありませんでしたから短大家政科に進学しました。

今の時代から考えると想像がつかないと思いますが、女性の地位はまだまだ低いものでした。いつか家を出たいと思いましたから、高校を卒業と同時に自動車免許を取りに行きましたが、予定通り取得することが出来ず。短大は入学式だけ出て、二週間欠席してしまう結果になったのですが、学校に行ってみると掲示板に名前があり、呼び出されており、恐る恐る行ってみると、先生は休んだ理由を尋ねて下さり、いろいろな話を聞かせて頂き、その折ＹＷＣＡのクラブ活動を知りました。大人に反発し、牧師様以外、大人と真剣に会話をしていなかったと気づきました。短大での生活は学ぶもの全てが新鮮で、洋裁、調理学、宗教学、育児学、衛生学、家族学どれも、懸命に指導して下さる先生方はどなたも魅力的で学校に夢中でした。短大時代の先生方との出会いが私を変えてくれました。衛生学のゼミナールは興味深く実験の一つ一つの積み重ねが私に忍耐を教えてくれました。

現在私のライフワークである社会貢献というテーマは短大で体験したものが基になっています。それは今も梅花に来られているそうですが、滋賀県にある止揚学園の福井達雨先生のお話を聞く機会があり、「この子らに世の光を」ではなく「この子らを世の光に」というお話に感銘を受け、障害をもつ子の為に献身されている先生のお姿が、私をこのライフワークに導いて下さることになりました。

短大の2年間は、ＹＷＣＡクラブの全国大会、夏休みは地方で教会に寝泊りしながらのワークキャンプ。48年前、地方ではまだまだ障害児の為の施設がなく、見捨てられている状態でした。また大山崎にある、水上隣保館での奉仕では子どもを抱かないで下さい、との言葉に衝撃を受けました。学生に優しくされると、帰った後、子供達は寂しさが募り、強く育ってほしいという教育方針にかえってふさわしくなく、子ども達の為に奉仕するという行為に溺れてはいけないと思いました。

短い時間に出来る奉仕には限りはありましたが、貴重な体験となりました。この様な学生生活を過ごしながらも、親に反発し、真剣に向き合わず、そのような自分自身が嫌いでしたが、信頼されることで、期待に応えたいとの思いが、自身を許し、他者を受け入れ、頑張る自分を好きになることで、新しい命を与えられ、強く生きる力を与えて頂いたと思っています。しかしまだまだ私にとっての試練は続きました。

就職では友人達は大阪御堂筋近辺の企業にどんどん決まって行くのに自分は戸籍の養女がネックで、今では考えられないほど就職口はありませんでした。しかし落胆せず家業の手伝いをしながら。就活をしていた

所、梅花短大衛生学研究室に助手補として勤務することになりました。これは嬉しいことでした。何とかして家を出て自活したいと思いましたが、叶いませんでした。

私の家は貸家業をしていたのですが、昭和20年の大空襲で土地だけが残り、疎開していていた為、着物や家財等を米や醤油に変えて暮らしたそうです。焼け残った土地を貸したり、貸家を建てたり、貸家業を優先した為私達姉妹を梅花に入学させ、自宅を建てることができたのは私の高校3年生になった昭和40年でした。やはり家業を継いでやらねば、両親が苦労しているのを理解できる年になりましたから、戦後の焼け跡を貸しているので、権利関係もあやふやで、家業を継ぐ以上は婿取りをして2人で頑張らなければと思いました。結婚して初めて自由になれたと思いました。自分で物事を決定し行動できる世界が広がりました。

結婚後、長女を母に預け、夫と共に調停や裁判も勉強しながら頑張りました。伯母の看病、日本の高度成長期時代の貸家業は忙しく、やり甲斐のある仕事でした。長女、長男、次男と授かり、その間と親、養母を見送り子ども達も成人し、自分の趣味だけでなく、公民館活動という生涯学習のボランティアに参加するうちに、民生児童委員を拝命し15年がたちました。

53歳で就任したのですが、想像以上に厳しい生活の悩みと、不幸の数の多さに社会をある程度理解していたつもりでしたが、心を痛める解決の出来ない事柄が多くありました。

皆さんも悩める方の話に耳を傾け、笑顔で接することだけでも人の役に立つことができる事を知ってください。自身の置かれている境遇はどんなに幸せか気づいてください。

赤ちゃんサロンと言って赤ちゃんとお母さんの交流の場つくりを15年してきました。

子育てをする時、思い出してください、気楽な子育てをと母を求めるときは、僅かな時間、子育ては○、×ではなく△、□、の正解があることを知ってください。地域に子育て交流の場が必ずあることを覚えておいてください。少し余裕ができたら奉仕を思い出してください。68歳になる私ですがまだまだ、ボランティア活動する中で知らなかったということがあります。いつも私は自分の力だけでなく天からの神の大きな力、風のような神の力を感じます。神から離れようとする私に、こうして学生の皆さんに私のつたない話を聞いて頂ける機会を与えて下さったことを、改めて感謝いたします。最後に皆さんに「何があっても、腐らず、自分を信じ、他者を受け入れると き、心は通う」ということをお伝えしたいと思います。

社会に出た時、悩むことは沢山出てくると思います、私もたくさん悩みました、でもたくさん祈りました。これからも社会の為、家族の為祈り続けます。ありがとうございました。

チャペル・アワーのマナーについて

名刺サイズのリーフレットを配布して、
マナーの向上に取り組んでいます。

チャペル・アワー（礼拝）は、梅花学園創立以来、欠かさず大切に守られてきた営みです。初めての方にとっては戸惑いの多い内容かもしれません。しかし、この時間は、歴史の中で多くの人を導いた言葉や、自分を越えたものによって生かされたと証言する人の言葉を聴くことで、キリスト教の愛に触れる良い機会なのです。一人ひとりがそれぞれの仕方でこの時間を大切にしてください。そして同時に、他の人の「時間」を尊重し、静粛を守り、参加者全員でこの場を守り育てていきましょう。

"Do for others what you want them to do for you."

（マタイによる福音書7章12節）

チャレンジ＆ヨレガンス

BAIKA 1874

チャペル・アワーのマナー

主を畏れることは知恵の初め。
無知なる者は知恵をも訓しをも侮る。
（箴言1.7）

梅花女子大学 宗教部

I CHAPEL HOUR!

① チャペル・アワー中は携帯電話を使用しない

携帯電話の着信音（マナーモードを含む）は、礼拝の妨げになりますので電源は切っておきましょう。

② 礼拝に集中し、私語はひかえる

小声の私語は周囲によく聞こえています。奨励者（講師）のお話しの内容が聞こえない時もあり、また黙想の妨げにもなりますので、礼拝中の私語は、くれぐれも慎みましょう。礼拝中の飲食は当然禁止です。

③ 礼拝の始まりと終わりを意識する

礼拝は司式者の開始の宣言によって始まり、終了の宣言によって終わります。後奏のオルガン奏楽時も礼拝は継続しています。最初から最後まで静粛な態度で礼拝を守ってください。

④ 讃美歌は起立して歌う

讃美歌は起立して歌いましょう。歌詞の内容が理解できない場合もあるかとは思いますが、始めにオルガンにより一部が演奏されますので、それをよく聞いて、歌うように心掛けてください。

⑤ 聖書を開こう

自分の聖書を持参しましょう。聖書朗読の際には聖書を開き、読まれる箇所を共に黙読し、その言葉の内容について考えてみましょう。

⑥ 祈りの作法

祈祷中は、静かに祈りの言葉に耳を傾け、その祈りに心を合わせてください。キリスト教においては、いかなる国、教派においても祈りの後に「アーメン」と唱えますが、これは「まことにその通りです」という意味のヘブライ語の言葉です。祈りが終わるタイミングに合わせて、共に唱和してください。

⑦ 賛美は神に

音楽礼拝などでの素晴らしい演奏、また素晴らしいお話しに拍手をしたくなることもありますが、礼拝ですので、拍手は遠慮してください。むしろ、そのような場を備え、素晴らしい演奏やお話しを為さしめてくださる神への賛美を表すため、力強く讃美歌を歌いましょう。

大切なチャペル・アワーの時間、みんなで一緒に守り育てて行きましょう。

「美しく、梅花女子」

梅花女子大学企画部長　藤原　美紀

今日は、梅花女子大学の学生さん全員に、「日本一美しく」なっていただきたいという私たちの強い想いと、梅花歌劇団「劇団この花」がどのような劇団で、なぜ梅花にできたのかということをお話しさせていただきたいと思います。

大学の授業や体験が本当に役に立つのか、いつ役に立つのかと、疑問に思うことがあるかもしれませんが、必ず内なる力となって自分自身のものになります。そして、何事も無駄にしたくないと思っている人、なんでも素直に受け入れてやってみることのできる人こそ、美しい女性になるための素地があると思います。チャレンジすることとは、ただ考えることではありません。「とにかくやってみる」「いろんなことに興味をもっておもしろがる」「人生をおもしろくするためのアンテナをいっぱい張り巡らせる」ような感性豊かな女性になることが重要だと思います。まずは、自分のめざす「日本一美しい」をしっかりイメージしてください。そこに知性・教養を加えてください。内面からでる知性や教養は宝石と同じ効果をもつものだと感じることが多々あります。そしてしっかりとした専門力を身につけてください。

私は、現在企画部にて梅花学園全体の広告・広報や産学連携、イベントプランニング、グランフロント大阪ナレッジキャピタル内にある梅花ブースの運営、チアリーディング事務局や梅花歌劇団「劇団この花」の運営などのお仕事をしています。様々な業務を通しての梅花のブランディングが使命のお仕事です。テレビCM、大学案内ホームページなどをはじめ、「梅花」「梅花女子大学」をどのように表現し、広く知っていただき共感していただくか、といったことを寝ても覚めても考えています。ブランディング＝「ブランドづくり」は、自分をプロデュースすることとととても似ています。今日のキーワードは美しさにこだわることと、表現することです。

梅花女子大学は、1878（明治11）年創立の大阪で最初にできた梅花女学校を前身とする、キリスト教主義に基づく女子大学です。梅花女学校は、女性が教育を受けることが困難であった明治維新直後に、真の愛と教養を学び新しい日本の発展に寄与できる女性の人材育成という大きな使命と情熱をもって開校されました。私学のすごいところはこのミッション（使命）とパッション（情熱）があるということです。創立時の建学の精神を今に継承し続けて138年。本学のめざす学生像は、自ら問題を発見し、その解決方法を見出すことのできるチャレンジ精神あふれる女性です。気品を備え、思いやりの心をもつエレガントな女性。これらをあわせもち、積極的に社会に貢献する表現力豊かな自立した女性です。本学での学びを基に、卒業後、「仕事力あるおしゃれな女性」として社会で活躍してほしいとの想いをこめています。

まずは、教職員一同、自分自身がいかにチャレンジ&エレガンスを体現するかを常に考えていなくてはなりません。どの様に自分を演出表現すれば魅力的に見えるのかを客観的に考えプロデュースすることが大切です。私の場合は自分を通して「梅花女子大学」のイメージを人に持っていただくことができ「梅花女子大学」を好きになったり親しみを感じていただけることを常に意識しています。この人と話してみたいな、お友達になってみたいなと自分に好意を持ってもらいたいとき、親しみのある話し方や笑顔を作りませんか？　そういったことをもっと意識的にやっているのです。では、表現力豊かなエレガントな女性とはどんな人でしょうか？　それは自分のめざすすてきな女性を思い描き、自分がより近づけるようにプロデュースし表現していくことで、身についていくのだと思います。自分の行ってみたいところに、友達や家族が「行ってみたい！」と思うようなプレゼンテーションをしなければなりません。人に共感してもらうためには表現力が重要です。これから、授業で発表したりする機会もどんどん増えると思います。その時、目線の配り方や声の届け方、資料の作り方などプレゼンテーションの基本はありますが、なんでも急には身につきません。この4年間毎日が自分がいかに美しくあるかを追求するための練習だと思ってください。今、礼拝中であっても、人の話を聞くとき、授業のときでも適度に話す人に目線

を送り、時にはうなずき、時には笑顔を作る。梅花では今、日本一マナーのよいキャンパスをめざしています。日々のあいさつに笑顔を加えてください。今日から日々積みかさねれば卒業時には、誰よりもすてきな笑顔が自分自身のものになっています。

キャンパス内では、「美しく」なるための多くの実践があります。毎月1日は、「おしゃれの日」です。「おしゃれの日」とは、チャレンジ&エレガンスを体現する日です。おしゃれといっても、ただ外見を着飾るということだけではありません。TPOにあわせた身だしなみ、マナーを心がけるとともに、内面も磨き他者への配慮や気配りをもつ品性ある女性として、いかなる場面においてもエレガントでスマートな身のこなしができるようになることを目標にした取り組みです。特に1日は、いつもより意識して、各自が考える「おしゃれ」を実施します。おしゃれを楽しむとともに、毎月のテーマも設定しています。1月は「チャレンジ&エレガンス」、2月は「美しい姿勢で歩く」、3月は「いつでも笑顔」、4月は「おもてなし」、そのほかにも「審美眼をみがく」や「感謝」など。外見への意識とともに内面のちょっとした心がけを、月のテーマにしています。取り組みを続けることで、扉の前の掲示をみて姿勢を正したり、笑顔を意識したり、継続することで自然と身につくことが多いと感じます。

キャンパスという毎日の学びの空間も、感受性やマナーが身につく大切な場所だと考えています。本学は大阪北部の緑豊かな丘の上に位置し、「茨木ガーデンキャンパス」と名付けられています。四季折々の花々が咲き、今年4月には、芝生広場に川の流れる水辺空間が誕生しました。学生、教職員がおしゃれで美しいキャンパスに通う者として自然と立ち居振る舞いを意識し、心身ともに自身と向き合うようになりました。さまざまな取り組みや記念日があることで、強制ではなく自然と意識を高めることができます。そして、キャンパスのいたるところで、多くの感動に出会える大学をめざして、毎月15日は「感動の日」としています。まずは、教職員が、学生さんたちに感動を毎日提供することを常に意識して取り組んでいます。感動は何にもかえがたいエネルギーとなります。日常の小さな感動を積み重ねることで、日本一おしゃれで感動あふれる女子大学をめざしています。

そういった梅花のキャンパスにあらたに誕生したのが「劇団この花」です。「劇団この花」がめざすのは、学問と融合した歌劇団です。芸術監督には、梅花女子大学の客員教授として謝珠栄先生をお迎えしています。謝先生は、日本で有名なミュージカルの多くを演出・振付をされています。日本のトップに立つ舞台人で謝先生に学んでいない人がいないといわれる方です。

謝先生が授業の中でお話しになっていて印象的なのが、豊かな表現者になるには常にアンテナをはっていること、どうすれば自分がチャーミングで素敵に見えるかを常に考えること。自分自身で個性を発見し、追及する。人の心がわかる、人の気持ちがわかり、素直に受け入れることのできることが大事だとおっしゃいます。

各学科で学び、高い教養と資格を取得して、自分の可能性を絶えず思い描き、社会人として自立していくことをめざすという、全国的にも類を見ない劇団です。一人ひとりが芸の魅力を磨き、さらに高め、見られていることを前提に、どんなつらい時も表情を曇らすことなく、いつもはつらつとして美しく、しかもエレガントでいる、そういうことばが団長のあいさつにあります。劇団の話は、舞台人のための話のようですが、どのような職業につくにしても共通する「人」として大切なことばかりです。ビジネススキルを上げる研修でもよく芝居のワークショップが使われます。

「劇団この花」のメンバーは、誰よりもエレガントで美しく、チャーミングであることをめざしてください。劇団員ではない皆さんも、歌劇団がある華やかな女子大学の学生として、様々な機会を通して表現力を磨き、笑顔を磨き、日本一美しい「梅花女子」を一緒にめざしましょう。一人ひとりが梅花ブランドとして輝いてください。私自身も努力していきたいと思います。

学園クリスマス標語

―2016年度　クリスマス標語―

「平和と希望のクリスマス」

クリスマス礼拝

2016年12月19日(月)

澤山記念館　講堂

クリスマス・ツリー点灯式

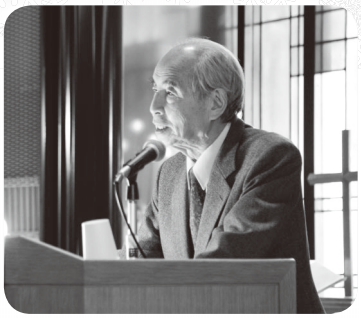
2016年11月24日(木)

学生会館前

M e r r y　C h r i s t m a s

クリスマスイブニング2016「クリスマス礼拝」

2016年12月17日(土)　澤山記念館　礼拝堂



（知能に重い障がいを持つ方々の施設）

「止揚学園を訪問して」

こども学科1年生　金城　綾香

8月22日、私は滋賀県の止揚学園を訪問し、そこで様々なお話を聞かせていただくとともに、そこで暮らす方々と触れ合う体験をすることで、止揚学園の温かく人間味溢れる雰囲気を感じることが出来ました。

止揚学園に到着した私が目にしたのは、とてもカラフルな外観の建物でした。中に入ると、入居者が壁をキャンパスに描いた絵の数々が目に映りました。その中でも、最も印象に残ったのは、職員の方からお話をしていただいた部屋の入口付近にあった、入居者の方がデザインされたステンドグラスです。「春夏秋冬」をモチーフに、それぞれの季節を題材にしたそのステンドグラスは、私の心に衝撃を与えました。

職員の方からお話を聞いた後、入居者の方々と一緒に昼食をいただき、その昼食時に私たちは賛美歌と学園歌を披露しました。入所者の方々は歌が大好きで、普段からオリジナルの曲を作り、皆さんで歌っているそうです。そこで、私たちも入居者の方々と手を繋いで踊ったり歌ったりしました。入居者の方々はあまり会話などは出来ませんが、私が手を握ると、相手の方も握り返してくれました。そこで、「会話は出来なくても、お互いの想いを繋ぐことは出来るんだ」と思いました。

昼食後、今度は「働く家」に案内されました。そこでは、入居者の方がタイルに絵を描き、それを職員さんが焼く、などの仕事をしていました。そこで描かれた作品はどれも色鮮やかで、描いた人の気持ちが直に伝わってくる様な感じがしました。

私が止揚学園を訪れて感じたのは、障がいを持たずとも「私もここに住みたい」と思わせる様な、人間の深い愛情と温かさでした。

小梅祭　学生礼拝

「新しい場所」

心理学科3年生　竹田　弥生

皆さんは生活の中で苦手なこと、出来ればやりたくないと思うことはないでしょうか？

得意なことは率先して行動してもやりたくないことは自分から行動するということは少ないと思います。「きっと誰かがやってくれるだろう」「私がやるよりも他の人がやった方が早いし正確だろう」「面倒くさいしやりたくない」そう思う人は多いと思います。私自身も人前に出ることが苦手で、何かを話すということがとても苦痛に感じます。苦手なことをやらない代わりに他の人がやりたくないことを率先してやっていました。ですが、最近誰かの前に立って行動するということが増え、その関係で人前に出るということが格段に増えました。人前で話をするとき、どうしたら相手に納得してもらえるか、相手に伝わりやすくなるか、相手がどう感じているのか、様々なことを考えるようになりました。相手が話を聞く時にわからないことなどがないように、自分から言葉を発信する時にはそういったことに気をつけるようにもなりました。

また、大学生活の中でも表立って行動することが増え、誰かに何かを指示するということの大変さを知りました。私は高校の時、部活の部長をしていたのですがその時以上に大変だと感じました。今までは仕事量が多くても一人で何とかできる量だったのですが、最近は一人では対処できなくなり、初めはやりがいを感じていたこともしんどいと思うことが増えました。他のメンバーとどう足並みをそろえるか、楽しく活動できるか、作業を分担するか、そういったことをしてこなかったのを後悔しました。失敗してもいいから挑戦し、経験することが必要だったんだなと思いました。

そんな、人前に立つことが苦手な私なのですが、唯一人前に出ても気にならない時があります。それは合唱をしている時です。合唱は私にとってはとても大事なもののひとつで

す。合唱を披露することは自分たちの実力を知ることができる貴重な場面でもあります。自分たちの苦手としているところ、うまいところが客観的に理解することができて、改善するいい機会でもあります。私が合唱をする上で大切にしていることがあります。それは、一緒に歌うメンバーのことを考えて歌うことです。この言葉は中学の時に顧問の先生が言っていた言葉です。「自分たちのパートを歌えるようにする以外にも相手と合わせた時に音が外れないように、みんなで合わせた時に一つの合唱曲として一体感が出るように心がけましょう」合唱は自分の練習だけでなく、他のパート、全体で合わせることがとても重要になってきます。この言葉は中学時代、他人と合わせるということが苦手だった私にとって、とても衝撃的なものでした。相手の顔色ばかりをうかがうのではなく、お互いがお互いを尊重しあい歩み寄ることが合唱だけでなく、日常生活でも大切なことだと実感しました。いまだに自分でも実践できているとは思えていませんが、いつかは自分の考えや主張を押し付けるのではなく、相手の話もきちんと聞き、お互いが納得できるようになりたいと思っています。

大学に入ってから合唱はやっていなかったのですが、今年からこのブレーメンの音楽隊を結成することとなり、大学でも合唱をすることができるようになりました。昔から合唱をしているメンバーもいれば、初めて合唱をする人もいます。メンバー同士の実力も違いますが、皆が楽しく合唱ができるように頑張っています。今はまだ大きな活動などは出来ていませんが、後々は福祉施設へ歌を披露しに行ったり、お客さんに私たちの合唱を聴いてもらえるように活動を広げていきたいと思っています。皆さんも合唱に興味をもっていただけるとありがたいです。

私たちの宣伝なども入りましたが、皆さんも小さなことでもいいのでやったことがないこと、苦手なことに挑戦してみてはどうでしょうか？そこから、新たな発見をすることができ可能性が広がるかもしれません。

「チャペル・アワー・フォーラムに参加して」

こども学科2年生　磯﨑　鈴

11月19日、同志社大学で行われたチャペル・アワー・フォーラムに参加させていただきました。主催は同志社大学、今出川キャンパスにて行われました。他校を招いてのシンポジウムは初の試みとのことでした。煉瓦造りの歴史ある建物が悠然と並び、どことなく異国感漂う雰囲気だけで古くからキリスト教と結びついた学校なのだと伝わってきます。威厳ある空間に始まる前から圧倒され、緊張感を持ちながらも、どのような議論が交わされるのかという期待を抱いてシンポジウムに挑みました。同志社大学、関西学院大学、神戸女学院大学、梅花女子大学、上記4大学が集い、それぞれの大学でのチャペル・アワーについて報告し合い、そのあり方について質疑応答をするなどチャペル・アワーという場について深く掘り下げ各々が今後の参考にする、といった形で話は進みました。チャペル・アワー、と一口に言っても決して一律の同じものではなく様々な形式や特色があります。自分の大学はどういう様式を取っているかを紹介し合う場では、

時間、内容、場所など構成する全ての要素が各大学に合った形で行われていることが各大学代表の話から分かりました。とりわけ私が興味深いと感じたのは、他の多くの大学では学生も奨励を担当しているというお話と、約15分という短い時間のなかで礼拝を行なっている神戸女学院大学のお話でした。他大学では積極的に学生がチャペル・アワーに関わり何らかの役割を果たしていると聞き、思っていた以上に各々に合ったチャペル・アワーの個性があるのだと感じました。このシンポジウムに参加するまで、私にとっての礼拝はおぼろげな幼稚園時代のものと高校時代に毎月行われていたもの、そして梅花でのチャペル・アワーが全てだったため、自分にとって新しい礼拝の持ち方を知ることが出来た貴重な場となりました。

（心臓病児共同保育園）「パンダ園のクリスマス会に参加して」

心理学科2年生　大薮 天音

12月26日月曜日、クリスマスからは1日遅れのクリスマス会に参加するために、私達は京都にある心臓病児共同保育園「パンダ園」を訪問した。

会場には園児だけでなく、その兄弟やご両親の方がおられたので、たくさんの人が集まっていてとても賑やかな印象を受けた。しかし園の先生の話だと、人が大勢集まる場所が苦手、あるいはしんどいという子は参加を断念してこの場にはいないのだという。クリスマス会に参加していた子ども達は、病気とは思えないぐらい元気に、友達や私達と遊んでいた。

参加したのは梅花生だけではない。人形を巧みに操って芝居をするグループや不思議な手品で子ども達を虜にしたおじさんがクリスマス会を盛り上げていた。私達はというと、こども学科は手遊びで子ども達と一緒に遊び、食文化学科は持参した絵本を読み聞かせた。出し物ができなかった心理学科は、昼食の準備などで子ども達と交流した。嬉しそうに感想を話す子ども達を見ていると、「今日来てよかったな」と心の底から思う。

クリスマス会がお開きになり、私達は園の先生からお話を伺う機会を得た。パンダ園は心臓病を患っている子どもだけではなく、ダウン症や自閉症の子どもも預かっている。先生が仰るには、そういった病気を持つ子ども達を預かってくれる場所はまだ少なく、遠方から来る子どももいるのだそうだ。そういった事情を持つ子ども達と関わりあうことができてよかったと思うし、今回参加できなかった子ども達にも何かをしたいという気持ちにもなった。

そういう機会を与えてくださったパンダ園の皆様、本当にありがとうございました。

学園創立139周年記念礼拝 及び 澤山保羅先生墓前祈祷会

学園創立139周年記念礼拝
2017年1月18日（水）澤山記念館礼拝堂

澤山保羅先生墓前祈祷会
大阪市設南霊園

2016年（平成28年）度 献金及び献品報告

いつも宗教部の諸活動にご協力頂きましてありがとうございます。
今年は下記の熊本地震・東日本大震災の被災地・施設・団体に、集めた献金・献品を送付いたしました。
ご協力いただきました皆様に心より感謝し、ご報告申し上げます。

《献金送付先》

＊前期献金＊

・「平成28年熊本地震」の義援金	25,000円
・東日本大震災の義援金：エマオをとおして送金	13,000円
・パンダ園	10,000円
・止揚学園	10,000円
・救世軍希望館	10,000円
・大阪水上隣保館	10,000円
・レバノンホーム	10,000円
・振込手数料（郵便局）	320円
合　計	88,320円

＊後期 クリスマス献金＊

・「平成28年熊本地震」の義援金	15,000円
・東日本大震災の被災地：エマオをとおして送金	10,000円
・止揚学園	12,000円
・救世軍希望館	10,000円
・釜ヶ崎医療連絡会議	10,000円
・レバノンホーム	10,000円
・振込手数料（郵便局）	240円
合　計	67,240円
総合計	155,560円

《 献　品 》 救世軍希望館へ持参 ※炊き出し用として

【食料品】
梅干 2箱+3パック / 手作り梅干 1瓶 / 味付け海苔（8切45枚）3個 / 味付け海苔（3切30枚）2個 / 焼き海苔（3切30枚）2個 / 無添加めん 1箱 / マヨネーズ 1本 / ドレッシング 1本 / 紙パックジュース（200ml）3本 / ケーキバー 2本 / プリン 2個 / レトルトカレー 4個 / 米 5kg 2袋 / クラッカー 1箱 / クッキー 1箱

【日用品＆衣料品】
タオル 2箱 / 冊子（3冊1セット）2セット

日本キリスト教海外医療協力へ郵送
【海外国内切手】 約1kg　**【外国コイン】** 約14g　以上

宗教部一年の歩み

宗教部はチャペル・アワー(礼拝)を守ることに重点をおいた一年だった。チャペル・アワーは学園の建学の精神を伝える重要な役割を担っている。宗教部は、心に残るメッセージを伝えることに全力を注いだ。

4月 聖書を読み祈る「オリーブのつどい」

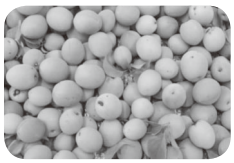
4月12日(火)より、毎週講義期間中の火曜日に教職員のための「オリーブのつどい」、水曜日は学生のための「オリーブのつどい」をお昼休みに宗教部事務室で開催した。聖書を皆で輪読し、祈りの時間を持った。

結婚式

4月23日(土)午前11時から礼拝堂で女子大学の卒業生の結婚式を行った。

6月 青梅の収穫と販売

今年も、学内で実った青梅を有志の教職員・学生ボランティアで収穫し販売した。毎年、5月末～6月中旬辺りの適当な時期に収穫し販売しているが、今年は6月上旬に収穫した。売上金の24、700円は、前期献金に充当。



薔薇育成ボランティア募集

F棟と図書館前(坂の登り口左側)に植えてあるアンネの薔薇育成ボランティアの学生を募集した。毎週水曜日の2講時に宗教部に集合し、植栽の手入れをして美しく薔薇を咲かせたり、またこの薔薇の花弁を用いてポプリを作ったりと、「アンネの薔薇」を中心とした繋がりの輪を広げて行きたい。

8月 「止揚学園」訪問

今年は、8月22日(月)に、教職員・学生の合計8名で訪問した。お昼に学園歌と賛美歌を皆で合唱した。

11月 小梅祭「学生礼拝」

11月4日(金)午前11時より「学生礼拝」を礼拝堂で行った。お話は「新しい場所」と題して、心理学科3年生の竹田弥生さんにお話して頂いた。司会は心理学科2年生の大薮天音さん。奏楽は水間泉先生。学生有志のコーラスグループ「プレーメンの音楽隊」による「A Whole New World」の合唱があった。

第2回チャペル・アワー・フォーラムに参加

11月19日(土)午後1時30分から3時30分迄、同志社大学神学館礼拝堂で開催されたチャペル・アワー・フォーラムにこども学科2年生の磯﨑鈴さんとこども学科1年生の鈴木みなみさんの2名が参加した。参加校は同志社大学、関西学院大学、神戸女学院大学、梅花女子大学の学生・教職員26名により「大学間比較からチャペル・アワーを考える」と題して議論が交わされた。高田太宗教主事が本学のチャペル・アワーの実態や特徴について報告された後、こども学科2年生の磯﨑鈴さんより本学のチャペル・アワーの満足度や要望や意見等が出された。その後、同志社大学神学部の学生の皆さんと共に懇親会を持った。改めてチャペル・アワーを見直す有意義な機会であった。

クリスマス・ツリー点灯式

11月24日(木)午後5時50分から6時20分迄、クリスマス・ツリー点灯式を学生会館前で行った。心理学科2年生の大薮天音さんのキーボードによる前奏でクリスマス・ツリー点灯式は始まった。口腔保健学科1年生の平沼真歩さんの聖書朗読の後、学長・宗教部長の長澤修一先生に点灯して頂いた。そして、宗教主事の高田太先生より「平和と希望のクリスマス」と題してお話があった。ブレーメンの音楽隊の皆さんによる「荒野(あらの)の果てに」と学生有志の聖歌隊の皆さんによる「もみの木」の合唱があった。点灯式終了後、礼拝堂の右側控え室で懇親会を行った。

12月 大学 アドヴェント音楽礼拝

12月12日(月)午後1時より大学のアドヴェント音楽礼拝を講堂で行った。講師は本学園卒業生の栗山明弓さんより「暖かなクリスマス」と題して奨励があった。植田奈津子さん、植田加奈子さんの独唱とピアノ伴奏があった。今回のアドヴェント音楽礼拝の為に3名はプラミューシスを結成され活躍された。

大学 クリスマス礼拝

12月19日(月)午後1時より大学のクリスマス礼拝を講堂で行った。奏楽は水間泉先生。司会は髙田太先生。キャンドル点灯は情報メディア学科1年生の枡本彩華さん、日本文化創造学科1年生の水上佳代子さん、食文化学科1年生の山田楓さんの3名が担当した。聖書朗読は枡本彩華さん、食文化学科1年生の尾﨑茉美さんが担当した。元梅花中高教諭で牧師の高橋詠子先生より「平和と希望のクリスマス」と題して説教があった。クリスマス献金のボランティアは心理学科1年生の狩野ゆき乃さんと堀口瑞姫さんが担当した。

クリスマスイブニング2016 クリスマス礼拝

12月17日(土)にクリスマスイブニング2016が開催された。午後2時から3時迄、礼拝堂で、クリスマス礼拝が行われた。奏楽は水間泉先生。早稲田摂陵高等学校ウィンドバンドのアンサンブル演奏の後、原忠和学園長の「平和と希望のクリスマス」と題してメッセージがあった。

パンダ園(心臓病児共同保育園)クリスマス会を訪問

12月26日(月)午前10時30分から午後2時30分迄、京都市右京区にある心臓病児共同保育園パンダ園のクリスマス会に学生と教

職員の14名で訪問した。人形劇や手品を見た後、昼食を頂き、食文化学科1年生の学生達によるクリスマス絵本の読み聞かせがあった。園児の皆さんにクリスマスカードをプレゼントした。クリスマス会の後、保育士の佐原良子先生が学生の質問に丁寧に答えてくださった。心温まるクリスマスを皆で分かち合った。

1月 創立139周年記念礼拝・澤山保羅先生墓前祈祷会

1月18日(水)午前10時からチャペルで創立139周年記念礼拝が開催された。中学・高等学校宗教部長の小畠可南恵先生より「願うこと」と題してお話があった。出席者は約200名。記念礼拝後、午後12時30分から澤山保羅先生墓前祈祷会が行われた。「澤山保羅先生の祈り」と題して学園長の原忠和先生のお話の後、有志による祈祷が行われた。最後に、原忠和先生よりお墓の説明があった。出席者は31名。

3月 卒業礼拝

大学・大学院の卒業礼拝を3月16日(木)午前9時15分より、講堂で開催する。説教は日本基督教団天満教会牧師の春名康範先生が「春はあけぼの」と題してお話しされる。学生・教職員11名の聖歌隊「リトルハーモニー・オリーブ」の皆さんによる合唱「旅立ちの日に」がある予定。

2016年度 チャペル・アワー感想文より

チャペル・アワーにようこそ
本学宗教主事　髙田　太先生

梅花女子大学が、同志社大学や神戸女学院と関わりが深いということを知りおどろきました。そして梅花女子大学の創立者である澤山先生は日本で初めて牧師になった方で、キリスト教とのつながりが強くすばらしいと思いました。そんな梅花女子大学でチャペル・アワーを受けることができて嬉しく思います。今日髙田先生が言われていた「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」という言葉を大切にして、これから4年間をすごしていきたいと思います。この言葉はとても深い言葉だと私は感じています。私がされていやなことを人にしてしまっていたら、人もいやなことが多いから人から嫌われてしまう。人にされて嬉しいことをすることによって人も嬉しい気持ちになり、お互いの関係が良くなり人との愛が生まれていくのだと思います。愛というのはすばらしく、1人では人生を生きていけません。その中で必要なのが友人・家族の支え・愛だと思うからです。キリスト教の精神を大切にし、生きていこうと思います。

求めなさい　そうすれば与えられる
本学学園長　原　忠和先生

梅花学園学園長である原忠和先生から、梅花の創設者澤山保羅先生の生い立ちを聞き、なぜ梅花ができたのかを知ることができたので良かったです。「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」この言葉通り私も、友人、家族お世話になっている周りの方々にそうしようと思いました。澤山先生がアメリカでキリスト教を日本でも伝えなければ…、女性にも学びの場を…。と思わなければ、私達はここにいません。私達がこの場に入れることに感謝し、勉学にはげんでいこうと思います。

お知らせを受けて思うこと
日本基督教団浪花教会牧師　山口　恒先生

今日のチャペル・アワーの山口先生のお話で「よきせぬ人生を歩むことが人生」という言葉が心に響きました。思い通りにならないことや後悔したりすることが私はよくあります。でもそれが人生でありそれが普通であるという意味だと思います。私は乗り越えることができることだけ神様は試練を与えると聞いたことがあります。これからどんな試練が来ても前向きに頑張りたいと思いました。

生命のいずみは豊かに満ちている
パンダ園保育士　佐原良子先生

今日の話は本当に感動して、涙が出そうになりました。何か嫌なことがあってもそれは、神様が自分に与えたお手伝いなんだなと考えて頑張らないといけないと思いました。私の知らない病気もたくさんあって、本当に多くの方が生きていて、遊ぶところも限られていることも達もいて、そういう子たちの助けになっているのがパンダ園なんだなと感じました。みんなで支え合って先生をしたり、ボランティアをしたり本当に素晴らしいなと感じることが出来ました。先生もこどもたちもみんなが幸せになれる場所なんだなと思いました。

共に歌おう、讃美の歌を
川西合唱連盟理事長、能勢口教会奏楽者　堀田啓子先生

今日は、色々な讃美歌を歌うことができました。讃美歌が580曲もあると聞いて驚きました。なじみの深い「むすんでひらいて」や、「蛍の光」が讃美歌ときいてびっくりしました。讃美歌はむずかしくてなじみがないと思っていましたが知らないところで、昔から歌っていたものなんだなと改めて思いました。歌っていて楽しかったです。チャペル・アワーで歌う時はもっとしっかりと歌いたいと思います。

美しく、梅花女子
本学企画部長　藤原美紀さん

小さなマナーでも、相手に与える印象は違ってくるし、梅花女子大生として、しっかりとしたマナーを身に付けていこうと思いました。梅花が大切にしている「チャレンジ&エレガンス」自分もいろんなことにチャレンジしてエレガントな女性であるよう心がけようと思います。

スカスカ人生への派遣
日本基督教団天満教会牧師　春名康範先生

「†」の意味をあまり深く考えたことがありませんでした。「愛」という意味があるということを初めて知りました。「愛」はすごいものだということがわかりました。「愛」は脳や細胞などを活性化するということに驚きました。植物人間になってもお母さんの呼びかけで植物人間ではなくなって本当に「愛」というものはすごいと思いました。

明治期梅花女学校で学んだ女生徒たち－キリスト教女子教育の目指したもの－
同志社女子大学名誉教授　坂本清音先生

レービット夫人の考えが、昔の日本の女性たちの考えを変え、自信をもたせたのはすばらしいと思った。自分も、こうした働きかけのおかげで教育を受けることができているのだと意識し、感謝して勉学にはげもうと思った。

あなたを抱きしめる日まで
日本基督教団千里聖愛教会牧師　川江友二先生

今回は初めてチャペルに入って礼拝を受けて、とても新鮮だったし雰囲気も良かったです。また、礼拝ではハンセン療養所と千と千尋の神隠しが類似しているというお話しをされていて、非常に興味深く思いました。そして、イエスは人の孤独などをすべて受け入れるなど偉大だと思いました。

「花の日」礼拝
渇きから始まる
日本基督教団扇町教会牧師　山田真理先生

今日のチャペル・アワーのお話を聴いて、イエス・キリストという人物がどういう人なのか少し分かった気がします。特に、聖書の泉の話を聴いて、感謝することの大切さを知ることができました。

…かもしれない
日本基督教団尼崎教会牧師　山本有紀先生

見えているものは見えている通りのものか聞いていることは本当に聞いたとおりのものか、論じ合ったりしているというのにとても共感しました。「りんごかもしれない」という絵本はとてもおもしろかったです。新しい発見をし、自分も新しくなるということはすごいことだと思いました。

一度きり
日本基督教団阿倍野教会牧師　山下壮起先生

人生は一度きりだから悔いのない人生にしようと私も思っていました。でも、今日お話を聴いて、自分のことしか考えてなかったなと思いました。自分の人生は一度きりなのは、周りの人の人生も一度き

りなんだという事を心に置いておこうと思いました。他の人の事も考えられるような人になりたいなと思いました。人間の罪を動物にかわってもらうなんて、ひどいなと思いました。

心に平和を築くことと祈ること
京都市交響楽団ヴァイオリニスト
日本基督教団関西学院教会員　加藤　香さん

ピアノとヴァイオリンがとても素敵な音楽で、思わず、聴き入ってしまいました。音楽というのは平和の象徴であると聴いて、確かにプロの演奏家から、民族まで、歌ったり音楽を奏でている時は真剣であっても、楽しそうだなぁと思いました。音楽は言葉は分からなくても他人とのコミュニケーション手段だと思いました。

自由を肉のために使わない。
止揚学園創立者　福井達雨先生

私は将来障がい児教育に携わる仕事がしたいと思っています。なので今回の講義は私にとってすごく大切な講義となりました。今では障がい者用の法律が出来て私達に認知されはじめているけど、50年以上前の頃はそのような法律もなくて、たくさん差別みたいなのを受けてきたと思います。そのような時代に福井先生は障がい者の方に施設を設立して、とてもすごいと思いました。私ももっと障がい者の方が暮らしやすい町づくりをしたいと思いました。

神様の愛の門
日本基督教団磐上教会牧師　成田いうし先生

「愛」について考えさせられる内容でした。先生のひとつひとつの言葉が心に響きました。これから、家族や友人をはじめとする自分の周りの人に対して愛をもって接していきたいと思います。梅花のスクール・モットーにも深い意味があるということを改めて感じました。

神のかたちに
日本基督教団大阪教会牧師　岡村　恒先生

神は常に私たちを大切に見守ってくださっているのだと聞いて、人として恥ずかしくない行動をいつも選びたいと思いました。髪の毛の数まで、自分の知らない自分まで知っている神にはきっと行動だけでなく考えまでも伝わってしまっていると思うので、慈愛の心を忘れずに人と接することを心がけようと思いました。

新しい生命（いのち）
梅花学園同窓会会長
本学園理事、本学園評議員　炭谷みどりさん

今と違って昔は、女性は「学歴はいらない」とか「こうであるべき」という時代の中、親を説得し、車の免許や大学（短期）に行ってとても自立していて尊敬したのと同じに私はどれだけ恵まれているのだろうと感じました。車の免許もすぐに取らせてもらい看護に行きたいと言うと入学金、学費も出してもらってとてもサポートしてもらっているなと実感し、親にも感謝し、そのことに気づかせてもらえた炭谷さんにも感謝したいと思います。

見えないものの大切さ
本学情報メディア学科准教授　玉置好徳先生

お話し上手ですごくおもしろかったです。私の祖母もペースメーカーを入れているので、話が少しわかった気がしました。本当は、病気という事でネガティブにとらえる事が多かったと思いますが、何でもポジティブにとらえて、自分の病気の事と向き合っていらっしゃったと思いました。目に見えない事もある病気。色んな人と向き合って生活していきたいです。

「居場所」が、人を変える
日本基督教団同志社教会牧師
学校法人同志社評議員　望月修治先生

宇多田ヒカルの話から話を広げていってくださっていたので、分りやすく受け入れやすい内容でした。自分も、「自分の居場所がわからない…」と思うことが多く、見つけた時の喜び、安心感が生まれた時、自分が成長したと感じることもあります。全てというのは難しいことだと思いますが、「居場所」が見つけられない人に手助け、手を差しのべられるような人にこれからなっていきたいなと思いました。

待ち時間
日本基督教団浪花教会牧師　山口　恒先生

私も前に進めない期間があってそのことを思い出すと自己嫌悪に陥るけど、その期間は待ち時間でその期間にも意味があると知れて少し気が軽くなりました。

人生でもっとも大切なことば
何よりも先ず神の国と神の義を求めなさい
救世軍希望館館長　前田徳晴先生

虐待は本当に悪いことだと思います。本当にやってはいけないことだと思います。現在、実の親が虐待をしているのがほとんどだと聞いて、信じられないです。虐待も、いじめも、DVもストーカーも、すべて人間の心が生み出すもので、同じことなんだとわかりました。自分のおかれている状況に感謝しなければならないと思いました。

信仰なき者の信仰
日本基督教団茨木春日丘教会牧師　大石健一先生

2つの選択で悩んだ時、2つとも選ばず、新たな選択を作るということ、私もそんなことがいつかできたらいいなと思いました。

あなたにもできる
日本基督教団世光教会牧師
世光福祉会理事長
日本キリスト教保育所同盟理事長
新井　純先生

諦めを謙遜と言い換えて、アクションを起こさない人が多いです。とても勿体ないことなので、これからは私も先生のように「貴方にも出来るよ」と、声をかけていきたいと思います。

命の息を吹き入れられた
日本基督教団長岡京教会牧師　韓　守信先生

神様のまねきがあるから、この礼拝に来れている。神様から命の息を吹き入れられたことを知らない、またはみとめていないから、自己中心的な行動、競争の世界になっている。けれど神様はずっと私たちを見守っていて愛してくださっている。自分の利益だけ考えるのではいけない。自分から行動してイエスを信じることを教えていただきました。

その人の叫び声が変わった
本学日本文化創造学科教授　米川明彦先生

たしかに生きるという大変でいつ死ぬかわからないのが人間だと思います。私もたまにニュースで見る事故死や殺害されたり病気で死んでしまったりというようなことを見ると自分もいつ死ぬのかわからないなと思うことは今までにもありました。ただ、私は死ぬ準備ではなく今は死なない準備をすべきだと考えます。たしかに、いつ何が起こるかわかりません。でも、たとえハプニングで起きたことでも生きる願望があれば、あきらめずにいれば人は生きる可能性があると思います。

アモーレ
日本基督教団千里聖愛教会牧師　川江友二先生

悩み事は、数えきれないほどありますが、イエス様だって、笑顔にみえている人にも、苦しみがあり、自分だけではない。苦しんでいるのは、私だけではなかったのだと改めて、自分だけ、自分だけ…と思って自分が恥ずかしくなりました。「おめでとう」素敵な言葉です。

アドヴェント音楽礼拝
クリスマスの暖かさ
日本バプテスト同盟山下バプテスト教会員
ヴァイオリニスト　栗山明弓さん

非常に心に響く内容でした。そして考えさせられるものがありました。また、歌や演奏も素晴らしかったです。ありがとうございました。

クリスマス礼拝
平和と希望のクリスマス
元梅花中学・高等学校聖書科教諭　高橋詠子先生

サンタさんが来なくなった子どもは、別の人のサンタさんが出来ると認められた子どもである、という言葉が印象に残りました。自分が差し出すことのできるものは何なのだろうと考え、誰かを幸せにできればなと思いました。

喜びを見出す力、生きる力
本学看護学科教授、看護保健学部長
河村圭子先生

最初に話された認知症の患者さんのお話がとても良い話で、私も将来そのような患者さんに出会うと思います。その時は今日のことを思い出して、その患者さんと真剣に向き合って頑張ろうと思います。あたり前って本当に深い意味を持つ言葉だと思います。今日はとても良い話で来て本当に良かったです。

出会い
本学学長、宗教部長　長澤修一先生

今日の話を聴き、出会いの中には自分の人生を変える出会いがあるのだとあらためて知ることができて良かったです。1年間、今まで経験することのなかったキリスト教の礼拝を経験することができ楽しかったです。この礼拝で聴いた多くの話を胸にとどめながら、これからの学生生活を送っていこうと思います。

2016（平成28）年度　チャペル・アワー講師一覧

（敬称略）

月	日	奨　励　題	略　　歴	奨励者
4	11	チャペル・アワーにようこそ	本学宗教主事	髙田　太
	18	求めなさい　そうすれば与えられる	本学学園長	原　忠和
	25	お知らせを受けて思うこと	日本基督教団浪花教会牧師	山口　恒
5	2	生命のいずみは豊かに満ちている	パンダ園保育士	佐原　良子
	9	共に歌おう、讃美の歌を	川西合唱連盟理事長、能勢口教会奏楽者	堀田　啓子
	16	美しく、梅花女子	本学企画部長	藤原　美紀
	23	スカスカ人生への派遣	日本基督教団天満教会牧師	春名　康範
	30	明治期梅花女学校で学んだ女生徒たち ―キリスト教女子教育の目指したもの―	同志社女子大学名誉教授	坂本　清音
6	6	あなたを抱きしめる日まで	日本基督教団千里聖愛教会牧師	川江　友二
	13	渇きから始まる	日本基督教団扇町教会牧師	山田　真理
	20	…かもしれない	日本基督教団尼崎教会牧師	山本　有紀
	27	一度きり	日本基督教団阿倍野教会牧師	山下　壮起
7	4	心に平和を築くことと祈ること	京都市交響楽団ヴァイオリニスト 日本基督教団関西学院教会員	加藤　香
	11	自由を肉のために使わない。	止揚学園創立者	福井　達雨
	25	神様の愛の門	日本基督教団磐上教会牧師	成田いうし
9	26	神のかたちに	日本基督教団大阪教会牧師	岡村　恒
10	3	新しい生命	梅花学園同窓会会長、本学園理事、本学園評議員	炭谷みどり
	10	見えないものの大切さ	本学情報メディア学科准教授	玉置　好徳
	17	「居場所」が、人を変える	日本基督教団同志社教会牧師 学校法人同志社評議員	望月　修治
	24	待ち時間	日本基督教団浪花教会牧師	山口　恒
	31	人生でもっとも大切なことば 何よりも先ず神の国と神の義を求めなさい	救世軍希望館館長	前田　徳晴
11	7	信仰なき者の信仰	日本基督教団茨木春日丘教会牧師	大石　健一
	14	あなたにもできる	日本基督教団世光教会牧師、世光福祉会理事長 日本キリスト教保育所同盟理事長	新井　純
	21	命の息を吹き入れられた	日本基督教団長岡京教会牧師	韓　守信
	28	その人の叫び声が変わった	本学日本文化創造学科教授	米川　明彦
12	5	アモーレ	日本基督教団千里聖愛教会牧師	川江　友二
	12	クリスマスの暖かさ	日本バプテスト同盟山下バプテスト教会員 ヴァイオリニスト	栗山　明弓
	19	平和と希望のクリスマス	元梅花中学・高等学校聖書科教諭	高橋　詠子
1	16	喜びを見出す力、生きる力	本学看護学科教授、看護保健学部長	河村　圭子
	23	出会い	本学学長、宗教部長	長澤　修一

宗教部編集後記

今年も新しいとびらが開かれ、紅白の梅が咲く季節に無事に「チャペル・ニュース」第13号を発行できますことを心より感謝申し上げます。

今年の11月19日（土）に、同志社大学神学館礼拝堂で開催された第２回チャペル・アワー・フォーラム～大学間比較からチャペル・アワーを考える～へ、学生２名と共に参加し、高田主事が報告されました。このフォーラムを通して他校の先生方や学生さんから多くの教えや恵みを頂きました。

いつも優しいお声で園児や生徒、学生に建学の精神と澤山保羅先生のお話をして下さった原忠和学園長が今年度で学園長の任期を終えられます。いつも聖書の御言葉を大切にし、学園の要となり心に届く優しいメッセージを語り、力強く祈って下さっていた原忠和先生の志を繋いで２０１７年度も宗教部一同、心を合わせて歩んで行きたいと思っています。

（0）